

これでダブルスに勝てる —知的テニスのすすめ—

BOB HARMAN & KEITH MONROE 著
勝田茂 訳 (アイオーエム)

窪田辰政^{1, 2)}, 檜健太郎²⁾, 山田幸雄²⁾

テニスを楽しむ者たち全てが必ずしもテニスに愛されるわけではない。他のあらゆるスポーツと同様にテニスにもある種の向き不向きはある。いつまで経ってもミスが克服できなかったり、年配のために走れなかったり、また運に恵まれず良い対戦相手やパートナーに巡り会えないということもあるだろう。そしてそのためにテニスを諦めてしまう初心者も少なくない。だが、今日もテニスというスポーツに憧れる人はたくさんいる。テニスを愛する指導者の側から言えば、上手なテニスプレーヤーたちはテニスを愛す、だが我々指導者はテニスを愛してくれる全ての人も、同じように愛したい。そして本書も、まさにそんなテニスを支える多くのアマチュアプレーヤーと、その指導者たちに宛てているのである。

訳者がアメリカ滞在時に出会ったこの本には、一般的なテニスの技術書とは異なる、「愛好家のため」の基礎的な戦術が書かれている。けれど戦術という言葉はしばしば誤解されがちだ。幾度もコートに通い全力で練習を積み重ね、その上で一回のゲームに臨む、などという意味に捉えられかねない。だが、訳者は言う。「それでは、週1～2回しかプレーできないアマチュアのプレーヤーはどうすればよいのだろう」と。

故に、テニス愛好家に求められるものはまた別の戦術となる。本書では、特に頭脳戦に根ざしたプレーの楽しみ方が易しい方から順に説明されている。一貫して述べられることは「楽しむための勝利の追求」ということだ。身体に鞭打って勝利を追求し、次の月曜日は、ほろほろになって一週間をスタートさせるのでは余りにもったいない。そうではなく、テニスとは体力勝負である前にまずは頭脳戦であり、その中で精神的な忍耐を経験することに楽しみがある、と筆者は語る。そのため肉体的に疲れない、年配の方や女性のためのメソッドも紹介されている。

そしてダブルスのパートナーとの関係についても詳しく説明している点が本書の大きな強みである。自身の強さを主張するのではなく、パートナーとの関係においてお互いの長所を活かしながら、楽しむポイントを共有する。言葉でいえば簡単だが、友情を深めるためのダブルスプレーは初心者にとって特に難しいことだけに、素晴らしく示唆に富む内容となる。著者は、そのためにこそ、基礎的な戦術の理解が欠かせないと語る。躓きやすいところを前もって押さえておくからこそ、ミスをして争いの種にではなく共通の課題にできる。成功すればそれは分かち合う喜びとなる。そのため、本書では基礎

1) 静岡産業大学

2) 筑波大学

的な情報についてもしっかりと多くの頁を割いている点で、他の技術書に比肩し、テニスを専門とした入門書としては非常にバランスのとれた一冊となっている。誰にとっても、プレーを

通じて生まれる最初の友情こそが何よりも大きな意味を持つ。「誰か」と楽しみ、テニスへの素晴らしき想いを育むための入門書としては、これ以上に優れた一冊は無いだらう。